

高床式「宿泊施設」  
〔満潮時〕



満潮時には建物が水面に浮いてみえるように高さを設定した。

高床式「宿泊施設」  
〔水位約50cm時〕



水位が下がるにつれて徐々に建物が露出する。

高床式「宿泊施設」  
〔干潮時〕



干潮時には建物が完全に露出する。敷地の姿が変わる。

### 高床式 = 「宿泊施設」



干潮時から満潮時と水位が上がるにつれて、この場所の風景は劇的に変わっていく。水位の変化は日によって異なる。2.4時間この場所に居なければならぬ事がある。その為に宿泊施設を設けた。



「展望デッキ」



デッキの最終地点にある展望デッキを乗り切ると劇的に変わっていく瀬戸内海、平定町、半島地、様々な風景を望めることができる。

「防波堤」

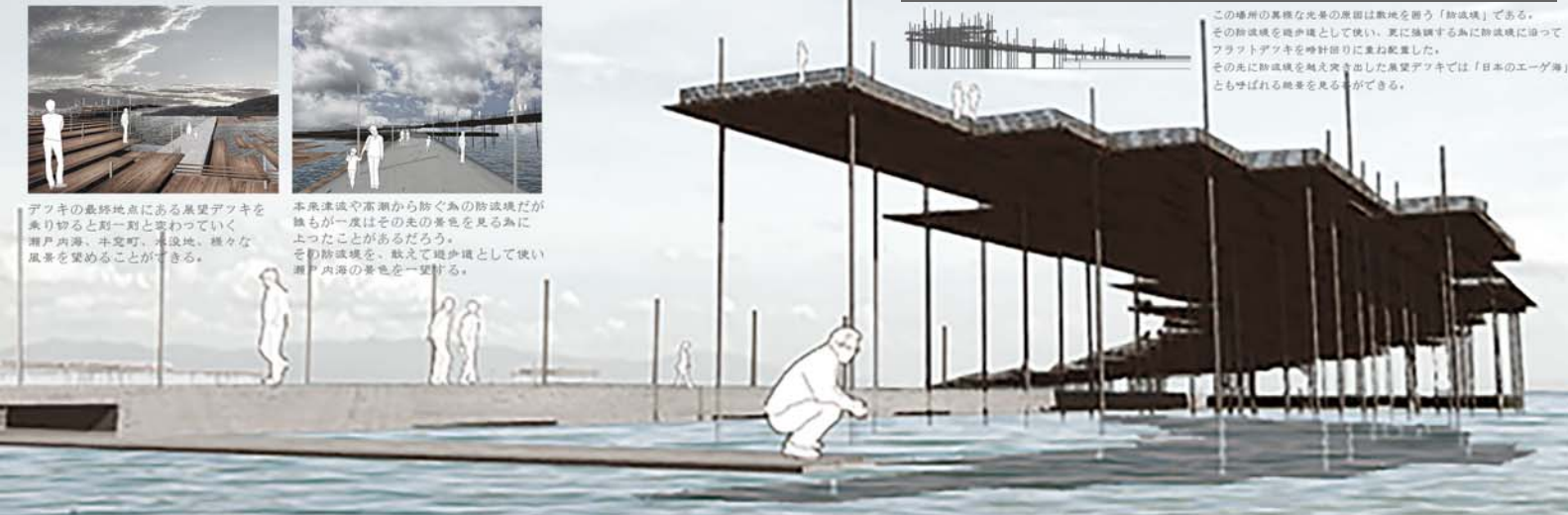


本県津波や高潮から防ぐ為の防波堤だが誰も一度はその先の景色を見る為によったことがあるだろう。その防波堤を、敷いて遊歩道として使い瀬戸内海の景色を一瞥する。

「展望デッキ」 - 「防波堤」



この場所の最終的な光景の原因は敷地を囲う「防波堤」である。その防波堤を遊歩道として使い、更に拡張する為に防波堤に沿ってフラットデッキを時計回りに重ね配置した。その先に防波堤を越え突き出した展望デッキでは「日本のエーゲ海」とも呼ばれる絶景を望むことができる。



### 敷地中心部 - 「塔」



何十年も放棄されていた時が止まった様なこの場所で時間をテーマにした今回の設計では水位が上がる土地にデッキを重ねるシステムを用い、劇的にこの場所の時間は進んでいる事を認識させる場所になっている。その象徴的集合体となる場所を敷地中心部に配置した。

夕焼けの「塔」



潮の漲り引きの「時間」と塔は周囲に影を落とすので太陽を基本とした「時間」という漢かつていくので、自然と人々がこの場所に2つの「時間」の象徴的モニュメントである。集まってい、人々の交流が深まる。

朝の「塔」



水位が上がるにつれてフラットデッキが漢かつていくので、自然と人々がこの場所に2つの「時間」の象徴的モニュメントである。集まってい、人々の交流が深まる。

夜の「塔」



夜の塔ではデッキにライトが反射し、幾重にも重なる光と影が生まれ出され、敷地の中心部を照らし出してくれる。

「港」

「塔」と「港」を繋ぐ橋



今回の計画敷地の入り口部分にある「港」のような場所で、「塔」と同様、満潮時に水に浸かる事がない。



中央部に繋がる「橋」は弧を描くようにカーブになっており、直線が多かったこの場所の硬いイメージを和らげる。

